

ラグビーを起点に、地域のつながりを育む。 株式会社ミクニ×クボタスピアーズ船橋・東京ベイ、小田原で進める地域共創

グラウンド提供や選手との交流を通じ、子どもたちがラグビーを楽しみ、続けられる地域づくりへ

クボタスピアーズ船橋・東京ベイは、パートナー企業の皆さまとともに、ラグビーを通じた地域とのつながりづくりに取り組んでいます。



その一つが、神奈川県小田原市で進めている株式会社ミクニとの取り組みです。

長年にわたり地域でラグビーの普及・育成に取り組んできた小田原市ラグビー協会の活動をベースに、株式会社ミクニによるグラウンドの提供に加え、クボタスピアーズ船橋・東京ベイの

選手が参加する交流機会などを通じて、地域の子どもたちがラグビーに触れ、楽しみ、競技を続けていくための環境づくりを進めています。

企業とスポーツチームがそれぞれの持つ資源や強みを生かしながら、地域の人々や団体とながり、新たな価値を生み出していくパートナーシップを起点とした地域共創の取り組みをご紹介します。

「地域とともに」がつかないだ、小田原とスピアーズ

株式会社ミクニにとって、小田原は重要な事業拠点の一つです。

同社では小田原に限らず、各地の事業拠点において、その地域とどのような関係を築き、地域の活性化に貢献できるかを大切にしてきました。

一方、小田原市ラグビー協会では、「ラグビーを通じて地域に元気を届け、子どもたちの健全な育成につなげたい」という想いのもと、長年にわたり地域に根差した普及・育成活動が続けられてきました。

こうした小田原市ラグビー協会の活動を核に、株式会社ミクニと株式会社クボタとの事業上のつながり、そして「ラグビー」という共通項が重なったことで、クボタスピアーズ船橋・東京ベイとのパートナーシップへと発展していきました。

株式会社ミクニ 代表取締役社長であり、小田原市ラグビー協会の副会長も務める生田久貴氏は、同協会の活動への想いと、地域活性化に取り組む背景について次のように話します。

生田社長

「我々にとって小田原という拠点は非常に重要です。それぞれの地域で、我々に何ができるのか、地域の活性化にどう関わっていけるのかということは以前から大切にしてきました。そこにスピアーズさんというコンテンツが加わることで、さらに取り組みが広がっていくのではないかと思います。」

チームを「応援する」だけでなく、ラグビーを通じて地域に何ができるのかを一緒に考える。そこから、小田原での取り組みが広がっていきました。



企業のグラウンドを地域へ。子どもたちがラグビーを楽しめる環境を

現在、株式会社ミクニでは、小田原市ラグビー協会の活動を支える取り組みの一つとして、自社グラウンドを小田原ラグビースクールの活動場所として提供しています。

ラグビーは競技の特性上、一定の広さを持ったグラウンドが必要です。一方で、全国のラグビースクールにとって、継続的に使用できるグラウンドの確保は決して簡単ではありません。

そこで、同社が持つグラウンドを地域に開き、子どもたちが継続的にラグビーを楽しめる場所として活用しています。

生田社長

「全国的にラグビースクールは、グラウンドを確保するのが結構大変なんです。ここでは日曜日のこの時間、と活動する場所が決まっている。今後の拠点整備の中でもグラウンドは残して、引き続きラグビーの活動に使ってもらいたいと思っています。」

企業が保有する場所を、地域のための場所へ。

施設提供という企業の強みを生かした取り組みが、地域の子どもたちのスポーツ環境を支えています。

スピアーズの選手との交流が、子どもたちの新たな「きっかけ」に

グラウンドという「場所」に加え、クボタスピアーズ船橋・東京ベイだからこそ提供できるのが、トップレベルでプレーする選手との交流です。

小田原ラグビースクールで行われた交流では、スピアーズの選手が子どもたちと直接触れ合い、ラグビーを楽しむ機会を設けました。

第一線で活躍する選手を間近で見て、一緒にプレーする。

その経験が、子どもたちにとってラグビーをもっと好きになるきっかけや、競技を続けていく目標につながることを目指しています。



生田社長

「リーグワンで活躍している選手と触れ合えるというのは、子どもたちにとって大きいと思います。『こんな選手になりたい』と感じてもらえれば、ずっとラグビーを続けてくれるかもしれない。他のスポーツもそうですが、小さい頃に触れた感動や喜びを持ちながら、スポーツを続けていくことはあると思います。」それから、ラグビーを子どもにやらせるには、保護者の理解もすごく大切です。子どもが楽しんでいる姿を見ることで、保護者の皆さんにもラグビーを知ってもらえる。子どもがやっていたら、試合を見るきっかけにもなりますよね。」

子どもから家族へ。そして家族から地域へ。

一つの交流をきっかけに、ラグビーとの接点が少しずつ広がっています。

「始められる」から「続けられる」へ。地域で考えるラグビーの未来

小田原での取り組みが見据えているのは、現在のラグビースクールの活動だけではありません。

小学生の頃はラグビースクールで競技を楽しめても、中学校に進学するとラグビー部がない。高校でも、部員数の減少や指導者不足などによって単独でチームをつくるのが難しくなり、合同チームで活動するケースもあります。

生田社長

「小学校から中学校に進むと、中学校にラグビー部がなくて続けられないということがあります。高校のラグビー部もどんどん減っていると聞いています。

だから、ラグビーを続けたい子どもたちが続けられる環境をつくっていく必要があると思っています。

例えば、学校単位ではなく合同チームをつくり、そこにリーグワンのチームなどがサポートに入る。そうすれば、学校にラグビー部がなくても競技を続けられる可能性があります。

小田原市ラグビー協会としても、この課題は認識しており、そういう仕組みを県西エリアでも
つくるのができたらいいですね。」

一つの活動を点で終わらせず、子どもたちの成長とともに続いていく地域のスポーツ環境へと
つなげていくことも、今後目指していく姿の一つです。

生田社長自身が経験した、「続ける」ことで広がった可能性

子どもたちがラグビーを続けられる環境作りの背景には、生田社長自身の経験もあります。

生田社長がラグビーを始めたのは、小学生の頃。

仲の良い友人たちと一緒に始め、その後、高校、大学まで競技を続けました。

生田社長

「私は小学生の頃に、仲の良い仲間と一緒にラグビーを始めました。

高校時代は全国大会に行くようなチームではありませんでしたが、大学に入って、しっかりした
指導やトレーニング、準備をしていけば、それまで勝てなかったようなチームにも勝って、日本
一になることができた。

そういう経験をしているので、子どもたちにはやっぱり続けていってほしいと思います。

続けたいと思っているのに、その環境がなくなってしまうことは残念です。

スポーツを続ける中で得られる経験は、競技の結果だけではありません。

仲間と一つの目標に向かうこと。自分の役割を見つけること。できなかったことができるように
なること。

そうした経験そのものが、その後の人生にもつながっていきます」

「いろいろな人に、それぞれの役割がある」ラグビーだから伝えられること

生田社長がラグビーに感じている魅力は、勝敗だけではありません。

そこには、地域づくりや企業活動にも通じる考え方があります。

生田社長

「ラグビーにはいろいろなタイプの人があります。

足の速い人もいれば、身体の大きな人、小さな人もいる。それぞれに自分の役割があって、それぞれのポジションで力を発揮できる。それがラグビーの一つの良さだと思っています。

いろいろな人たちが一つの目標に向かって、一つのチームをつくる。「ONE TEAM」という言葉にも表れているような考え方ですね。

ラグビーをやっていたというだけで、初めて会った人とも共感できることがあります。それは日本だけではなく、海外でも経験しました。

ラグビーには、人と人をつなぐ力があると思っています。

異なる個性を持つ人が、それぞれの役割を果たしながら、一つの目標へ向かう。

そのラグビーの価値観は、さまざまな人や企業、団体が関わる地域づくりにも重なります」

一社、一チームから、「地域の仲間」へ

小田原で目指すのは、株式会社ミクニとスピアーズだけで完結する活動ではありません。小田原市ラグビー協会をはじめ、地域の企業・団体とも連携しながら、スポーツを通じた地域のつながりをさらに広げていくことを目指しています。

インタビューでは、地域の企業や団体にも活動の輪を広げていく構想について話が広がりました。

小田原ではラグビーだけでなく、さまざまなスポーツが行われています。

競技や組織の垣根を越え、スポーツを共通項として地域の企業や団体がつながることで、地域全体を盛り上げていく。

そんな未来も見据えています。

生田社長

「我々だけではなく、小田原の地域の仲間にも広がっていけるといいと思っています。」

地域の企業にも声をかけて、一緒に取り組む。そうすると「地域を挙げて」という形になっていく。

スポーツを通じて地域の仲間がつながって、それが小田原の活性化につながっていけばいいですよ。

今後は、ラグビースクールの子どもたちがスピアーズの試合を観戦し、自分たちにラグビーを教えてくれた選手が実際にリーグワンの舞台で活躍する姿を見る機会など、新たなアイデアも生まれています」

一つの活動から次の活動へ。

そして、一つの企業から地域全体へ。

パートナーシップを起点に、その輪を少しずつ広げていきます。



「協賛して終わり」ではない。ともに地域をつくるパートナーへ

スポーツチームと企業のパートナーシップは、広告掲出や企業名の露出だけではありません。企業が持つ施設や地域とのネットワーク。

スポーツチームが持つ選手、競技、そして人を惹きつける力。

地域の学校やスポーツ団体、企業、そしてそこに暮らす人々。

それぞれをつなぐことで、一社だけでは実現できない地域の取り組みを生み出すことができます。

生田社長

「まずは強いチームであり続けてもらいたいですね（笑）。

その上で、活躍している選手たちと地域の人たちが交流できることは、非常に意味のあることだと思っています。

スピアーズさんは、こうしていろいろと相談しても、それに対して前向きに応えてくれる。一緒に「どう実現していくか」を考えていけるところに魅力を感じています」

ラグビーを楽しめる場所をつくる。

トップ選手との出会いをつくる。

競技が続けられる環境を考える。

そして、スポーツを通じて地域の企業や人をつないでいく。

クボタスピアーズ船橋・東京ベイはこれからも、パートナー企業の皆さまと「地域に何ができるか」をともに考え、それぞれの強みを生かした地域共創に取り組んでまいります。

株式会社ミクニについて

【会社概要を掲載】

会社名：株式会社ミクニ

代表者：生田久貴

所在地：東京都千代田区外神田 6-13-11

事業内容：自動車関連部品、各種産業機器、健康福祉機器等の製造・販売

URL：<https://www.mikuni.co.jp/>



クボタスピアーズ船橋・東京ベイについて

クボタスピアーズ船橋・東京ベイは、日本ラグビーの最高峰「ジャパンラグビーリーグワン」に所属するラグビーチームです。1978年創部し1990年にクボタ創業100周年を機にカンパニースポーツと定め、千葉県船橋市の（株）クボタ京葉工場内にグラウンドとクラブハウスを整備しました。「Proud Billboard」のビジョンの元、強く、愛されるチームを目指し、ステークホルダーの「誇りの広告塔」となるべくチーム強化を図っています。また、チーム強化だけでな

く、SDGs の推進やラグビーを通じた普及・育成活動などといった社会貢献活動を積極的に推進しています。ホストスタジアムはスピアーズえどりくフィールド（江戸川区陸上競技場）。スピアーズではファンのことを「共にオレンジを着て戦う仲間」という意図から「オレンジアミー」と呼んでいます。

■NTT ジャパンラグビーリーグワン 戦績

2022 ディビジョン 1 3 位

2022-23 ディビジョン 1 優勝

2023-24 ディビジョン 1 6 位

2024-25 ディビジョン 1 2 位

2025-26 ディビジョン 1 2 位

■公式ホームページ

<https://www.kubota-spears.com/>